



Donation Ceremony REPORT

愛媛トヨタ

<目次>

タイ北部への支援活動について
タイの現状
ランパーン支援物資贈呈式に至るまで
支援物資贈呈式 (Donation Ceremony)

社会貢献活動広報について
News Release
愛媛新聞社訪問

Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～タイ山岳民族の現状～



タイ北部に広がる標高500メートル～1500メートルの山岳地帯には、アカ族、ラフ族、リス族、モン族、ヤオ族、カレン族など十数部族、約75万人の少数民族が生活しています。

多くは中国南部やミャンマー、ラオスからここ1～2世紀の間に移住してきた人々で、どの民族も独自の言語と高度な手芸技術による民族衣装をもち、焼畑農業にともなう数年～十数年ごとの集落移動を繰り返しながら、伝統的な世界観と文化を保持してきました。今、その環境が脅かされています。

タイ政府による森林保護政策により、森林の伐採、焼畑が禁止され、定住を余儀なくされた彼らは、生活の基盤を根こそぎ失いつつあります。

かつてのように肥沃な土地を求めて自由に移動することができず、かぎられた土地で連作を繰り返さなければならないため、地味のやせた山の傾斜地では収穫量が極端に低下し、収量を上げるには高価な肥料や危険な農薬に頼らざるをえなくなるのです。

今では主食の米でさえ自給できなくなっている村も多く、人々は貧困にあえいでいます。

一方でタイ経済の急速な発展と近代化の流れの中で、貨幣経済や物質文明への誘惑から、村の若い人々は現金収入を求めて労働者としてバンコクやチェンマイといった都会に流れて行きますが、タイ語の教育を受けていないことから不当な差別や低賃金で苛酷な労働に甘んじねばなりません。

そのような状況の下、近年ではタイ政府も、タイ国内に定住をはたした山岳民族の人々をタイ国民として認め、受け入れていく方針をとっており、山奥の村にも小学校を作り、タイ語による教育を実施しています。

しかし予算、人材、交通のアクセスの事情などにより、平地部の子供たちの教育環境と比較するとまだまだ不十分で、小学校すらない村、また校舎はあっても教員が不足している村が多数あります。

タイでは中学3年までが義務教育期間ですが、ほとんどの山の村では通学可能な距離内に中学校はありません。山の子供たちにとっても、今後いやおうなしにタイ社会と関わりながら生活していく以上、最低限の学歴と知識は必要になってきます。しかし一家の所得が10000バーツ(日本円にして30000円程度)にも満たない家庭がほとんどという山岳民族の人たちにとって、町の学校に子供を寄宿させて勉強させるのはとうてい不可能で、義務教育とうたわれているにもかかわらず、小学校すら満足に卒業できないでいる子供も多数いるのが現状です。

今回集めて頂いた支援物資は、そのような境遇の山岳民族の方々へ送られました。



Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～ランパーン物資贈呈式に至るまで～

どんな支援が出来るだろう・・・

今回の、タイ北部地域の人々への支援物資活動を2007年2月に開始致しました。

支援物資収集については、労働組合より社員の皆さんに呼び掛けを致しました。

主に、子供の衣類・おもちゃ・文房具を中心にご提供をお願いしたところ、皆様より各ご家庭やご親戚にお声を掛けて頂きました。そうして集められた物資は各店舗より本社宛で、ダンボールに詰められた支援物資が続々と送られて来ました。



たくさんたくさんの感謝とともに

この活動に賛同して下さったお客様をはじめ、業者の皆様、県内の幼稚園・小・中・高校の皆様方のご協力もございました。本当にありがとうございます。

おかげさまで、5月中旬には本社裏の倉庫は足を踏み入れられない程、大小さまざまなダンボールや自転車でいっぱいになりました。

集まった物資は、タイの税関を通す関係もあり、細かく分類してダンボールに詰めなおす必要がありました。・大人・子供用衣類(上・下)・おもちゃ・文房具・自転車・その他雑貨 等々・・・

それぞれの物資がいくつづつ分けてダンボールへ個数を記載します。

そして、コンテナ輸送する為に"TOYOTA BANGKOK"と書かれた指定の送付表にNoを次々に記入していきます。

このたくさんたくさん集まった支援物資の山は、社員有志達の手によって、分けられました。晴天で汗のむしばむ中、なんとこのべ50名の皆様のご協力下さいました！

当初、物資の量から朝から夕方までを推測しておりました。ですが実際は、午前10時から開始したところ、参加者全員のすばらしいチームワークと知恵の集結によって、なんと12時には全て片付いていました。これには参加者も驚き！

全部で集まった物資は・・・

ダンボール151箱 自転車13台

当初20フィートのコンテナを準備しておりましたが、40フィートに変更することになりました。

Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～ランパーン物資贈呈式に至るまで～

積荷はひと足先に

支援物資はコンテナで送る際、こちらで事前に積荷リストを作成しておきます。現地の税関で、ダンボールの中身・個数・単価を、ひとつひとつチェックが入るときに必要なからです。

そして6月4日に松山港を出発した巨大コンテナは18日に無事にバンコクの港へ到着しました。27日に予定していた現地での支援物資贈呈式に間に合うのか、大変心配しておりましたので、ひとまず安心です。



松山出発！

そしていよいよ27日の贈呈式に参加するメンバー、愛媛トヨタから竹本専務以下8名と、写真家・宮内様、ガイド役として細木様・今回の活動にご賛同頂いた竹本様、総勢12名で25日に松山空港を後にしました。

最初はみな、不安と期待の入り混じった複雑な心境のようでしたが、仲間達と共にいることで不思議と心強く感じました。



ただひたすら北へ一本道を・・・

26日は朝の5時にバンコク市内を出発し、トヨタのハイエース1台に13名の荷物と人を積み、120Kmの速度でランパーン市内への800Kmを移動しました。今タイは雨期真っ只中で、スクールに何度も見舞われましたが、バケツの水をひっくり返した、という表現がピッタリでした。

今回敢えて車で移動を選択したのは、そのほうがより現地の人や風土を肌で感じる事が出来、またそれにより、ひとりひとりの人間的成長に大きく影響するという考えからです。

そして実際に走ってみると、周りは緑でわらわらの高床式の家がまばらに建ち、その近くで赤ちゃんをおぶって放牧をしている先住民を目にすると、本当にタイに来たんだ、という実感と自分達のこれまでの価値観との間に、大きなギャップを感じないではいられませんでした。



Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～ランパーン物資贈呈式に至るまで～

もっと山奥へ

そして翌朝27日 朝9:00、タイのロータリークラブのポンワット氏にご同行頂き、不安と期待の入り混じった13名が、いよいよランパーン市から50Km離れた山奥の村へ出発です。

50Kmの道のりは、片道およそ2～3時間かかります。ポンワット氏のガイドのもと、ひたすらまっすぐ進みました。両脇にはうっそうと緑が生い茂り、その向こうには水田やお茶・パイナップルが栽培されており、近くには農業学校がありました。ランパーンの人たちはここで農業のノウハウを学ぶようです。さらに山奥に進むと、次第に道が細くなり舗装されていない、でこぼこ道になりました。



貧富の差を体感しながら・・・

タイは基本的にまわりに山は無く、平地が多いところなのですが、ここでは断崖絶壁の山肌がそびえ、タイの山岳地方へ来たんだ、という私たちの意識を強めました。

でこぼこ道を2～30分進んでいくと学校らしき建物があり、そこでは興味深そうにこちらを見るたくさんの子供たちと出会いました。後から聞いたのですが、学校は日本円で2～30万円くらいで建てる事が出来るそうです。これには感慨深いものがありました。

道・・・ないですよ

出発して2時間・・・そろそろ思っていたら、急に行き止まりに・・・！？ということで引き返さなくてはなりません。

ところがスクールでぬかるんでおり、後輪がはまってからまわりしています。まわりは人影もなく、うさぎと黒いブタだけ・・・。男性が全員で後ろから押し、女性は後部座席に移動して運転手はエンジンをかけました。

何度も何度も挑戦し、ようやくとぬかるみから脱出し道に戻ることが出来ました。みな思わず拍手！

・・・そして少し戻ること15分、ようやく贈呈式の会場に辿り着きました。



Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～ 支援物資贈呈式 (Donation Ceremony) ～

村の一大イベント

村の会場集まって下さった人たちの足元は泥だらけでした。贈呈式会場は屋根のあるコンクリートの建物のようなのですが、壁が無いので、集まった人たちは外にもたくさんあふれています。

聞いてみると、この会場に集まったひとは206名(40家族)です。モン族・カレン族・アカ族の三つの部族が集まっており、とても興味深そうな眼差しが印象的でした。この中には通常はもっともっと山奥に住んでいる方たちも、この贈呈式のために、子供を連れて雨の中、下山してくれていました。そして皆この式の為に、着飾って参加されているようでした。



物資は5つの村に・・・

今回私たちの送った支援物資は、ちゃんと村に届いていました。

全て中身をダンボールから出され、ロータリークラブの方たちのご協力で、5つの村に分けてすでに送られていました。衣類はビニールに小分けにして、自転車とともに会場のステージ横に並べられており、おもちゃや三輪車はステージ上に並べられていました。

そして、人々のざわめきの中、いよいよ贈呈式が始まります。

まずロータリークラブの代表の方から、タイ語と英語でご挨拶があり、続いて竹本専務がご紹介を受け、まず日本語で皆様に集まってくれたことへのお礼と、最後に「タイが好き・タイの人が好き・来て良かった！！」という言葉で締めくくられました。



純粋な瞳とたくさん出会えて・・・

次にステージの奥から、おめかしをした10人の可愛らしい少女達が、大人に誘導され、そろそろと出てきました。どうやら踊りを披露してくれる様子です。

その中にいたブルーの服を着た少女がタイ語で短い挨拶をした後、テンポの早い音楽が大きな音で流れ出しました。すると、10人の少女達がぱっとポーズを取って軽やかに踊りだしました。

金銭的にはとても貧しく、毎日の食事すら満足にとることの出来ない村の子供達が、瞳をキラキラさせて、ちょっとはかみながら一生懸命踊ってくれているのを見ると、なんて可愛らしくて愛らしいんだろう！！と素直に感動すると同時に、彼女たちがこの式の為に、一生懸命練習して、緊張しながら私たちの為に踊ってくれている、その背景を想像出来、私達は感激で涙が出ました。



Donation Ceremony REPORT

タイ北部への支援活動について
～ 支援物資贈呈式 (Donation Ceremony) ～

物質的に貧しくても、心がとても豊かである

常々横田社長のお話の中にもございますが、子供達の瞳の輝き、先住民の人々の微笑む姿に、身を持ってその意味するところを実感しています。

私達はいつの間にか、目先の物質的豊かさに心を奪われて、真に大切な人間としての在り方は？ということ深く考えず、ただ過ぎ行く日々を安穩と過ごしてしまっているのではないのでしょうか？

その心が日本の社会にも大きな影を落としているような気がします。
人間関係の摩擦から起こる不幸なニュース・心の病……。全ては心の有り方次第です。

今回の物資支援を通じて、私達は反対に心の支援をして頂きました。
日本に帰ったときまず感じたのは、すべてに対する感謝の念です。

今後の活動に向けて・・・

今回の支援活動を実施するにあたり、本当にたくさんの方々に御協力賜りました。
この場をおかりしてお礼申し上げます。

皆様の御協力のおかげで、今回の支援が無事に行われたことに大変感謝を致しております。
この活動を通じて、本当に多くの皆様方の心の温かさ、また協力し合うことの素晴らしさを実感すると共に、社員の成長・自己実現にもつながるものと考えます。

今後も社会とのコミュニケーションを通じて、社会貢献活動の経験・ノウハウ・成果を皆で共有し、長期的な活動の実現に向けて継続的な活動の改善に努めます。



Donation Ceremony REPORT

社会貢献活動広報について 愛媛新聞社訪問(7月2日)

7月2日愛媛新聞社を訪問し、タイ支援活動内容の報告会を行いました。
現地の状況は写真パネルを用いて説明を致しました。報告会の詳細は下記の通りです。



愛媛新聞 11面 2007.7.4 掲載記事

**タイ山岳地帯に
衣類や文具贈る**
愛媛トヨタ

貧困に苦しむ人々を支援しようと愛媛トヨタ自動車(松山市、横田英毅社長)はこのほど、タイ北部の五部族に衣服や文具などの日用品と自転車十三台を寄贈した。現地は水道や電気もなく、都市部と比べ貧困が著しい山岳地帯。現地に支援物資は船で輸送、

住む男性から親父のあった同社幹部に支援要望があり、話を聞いた労働組合が全面協力。二月中旬から日用品の収集を関係者に呼び掛け、五月末までに二十コンテナ一台分を集めた。

現地のロータリークラブを介し住民に贈られた。六月二十七日にランパーン市で行われた贈呈式には、同社の竹本辰美専務や組合員ら九人が出席、会場には現地の住民約二百人が集まり、子どもが踊りを披露するなど交流も深めた。

贈呈式に出席したメンバーは「現地の人々は本当に純粋で、毎日が感動の連続だった」「ものを大事にしなればと痛感した。多くのことを教えてもらった」と口々に感想を語っていた。

